

令和2年度 愛媛県NPO法人活動助成事業 活動報告書

NPO法人ささえる

ひとり親や生活困窮世帯など経済的な理由により十分な学習支援を受けられない児童を対象として、月に1回「だれでも寺子屋」を開催し、お菓子作りなどの体験学習も含めた学習支援を行いました。

また、同時に連携団体と地域ボランティアと協働し、昼食を無償提供を行いました。

活動期間：令和2年11月～3月

学習支援参加者：延べ 24名

提供食事数：約500食

<学習支援>

愛媛大学の学生ボランティアが中心となり、教材を使用して個別学習を実施しました。

参加児童は小学校1年生～6年生で、自ら参加したいと申し出てくれたことが印象的でした。付き添いの保護者が見守る中、出来るところは自分で、分からない部分は学生ボランティアに質問しながら進めていきました。

毎月参加してくれた児童の中には宿題を持ってきて教わりながら進めるようになってくるなど、ボランティアとの関係性も出来てきたと感じています。また、保護者から学習の進め方や今後のこどもとの関わり方について質問をいただくなど、分かる限りのアドバイスにはなりましたが、そうした悩みなどを相談できる場になっていったことは、良かった点として今後にも繋げていきたいと思っています。

1月以降はコロナ禍の影響があり、一部事業内容を変更して学習用タブレットを購入し、感染予防対策として出来るだけ対面を控えながら学習支援を継続させていきました。結果として、こどもたちにはタブレットの方が受け入れられやすく、集中して勉強をしていました。



今回の活動では、勉強だけでなく体験を通して他の児童との関わりや学びを深めることも目的として考えていました。主にお菓子作りが多かったのですが、未就学児も保護者と参加することができ、毎回作業スペースが取れなくなるくらい大盛況になりました。
皆で作ったお菓子は、食事提供のデザートとして配布しました。



<食事提供>

連携団体の正念寺が中心となって行っている「おてらごはん」に協力する形で、追加の食事と体験学習で作ったお菓子の提供を行いました。

複数メニューを選べる形になったことから、大変ご好評をいただきました。

本来は地域での交流も目的として考えていたため会場で皆で会食予定でしたが、コロナウイルスの感染予防対策としてテイクアウト方式に変更しました。



<勉強会>

日程調整の関係で実施日は助成期間外となりましたが、こどもたちを対象に「いのちの授業」を清水医院の宇田 Dr.に開催していただきました。多くの児童が参加し、鬼滅の刃の内容をお話に盛り込むなど工夫していただき、約45分間、こどもたちにとっては長時間でしたが質問プリントにも一生懸命取り組みながら集中して聞いてくれました。



<活動の振り返り>

こどもの学習支援を中心とした活動でしたが、最終的に保護者や地域を含めた活動となったことは良い結果になったと思っています。また学生ボランティアを中心にしたことで地域の方とのつながりが深まったように感じます。

コロナ禍で、こどもを含めた地域の方たちが集まる機会が減少しています。そうした中で行った活動でしたが、感染の不安もある中で参加してくれた方たちの声からは、このような集える機会の大切さを感じ取ることが出来ました。

まだまだ通常の生活に戻ることが難しい状況ではありますが、今後も感染状況に留意しながら活動を続けていきたいとおもいます。